大板井遺跡24

－福岡県小郡市大板井所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第２４９集

２０１０

小郡市教育委員会

序　文

本書は、個人専用住宅の建築に先立って、小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

本遺跡が所在する小郡市大板井は数千年以上前から人々の営みが確認されており、特に弥生時代には大型竪穴住居を中心とした集落、数多くの甕棺墓が密集する墓地などが見つかっています。中でも注目されるのは、小郡若山遺跡で発見された２面の多鈕細文鏡（国指定重要文化財）の存在です。この貴重な青銅の宝器を持ち得たのはどのような人物だったのでしょうか。

今回の調査では、弥生時代中期の甕棺墓5基と祭祀土坑1基が見つかりました。東に隣接する大板井遺跡18から続く甕棺墓群の西端部に位置すると考えられ、墓地の範囲確認に重要な調査となりました。今回得られた成果が今後永く活用され、この報告書が文化財愛護思想の普及に寄与することになれば幸いです。

最後に、地権者である筒井和夫氏、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

平成22年３月31日

小郡市教育委員会

教育長　清 武　　輝

例　言

1．本書は、個人専用住宅建築に伴い、平成20年度に小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2．発掘調査は、国・県の補助を受けて実施した
3．遺構の実測及び写真撮影は、佐藤雄史が中心に実施した。
4．遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に杉本岳史、馬田妙子、衛藤知嘉子、佐々木智子、川尻朋子の諸氏に多大なる協力を得た。
5．遺物の写真撮影は（有）文化財写真工房に委託した。
7．遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
8．遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
9．本書の執筆・編集は杉本が担当した。

本文目次

第１章　調査の経過と組織 …… 1
　１．調査の経過 …… 1
　２．組織 …… 1
第２章　位置と環境 …… 1
第３章　遺構と遺物 …… 2
　１．甕棺墓 …… 2
　２．祭祀土坑 …… 9
第４章　まとめ …… 9

挿図目次

第１図　大板井遺跡24周辺遺跡分布図（S＝1/25.000） …… 2
第２図　大板井遺跡24調査区位置図（S＝1/5.000） …… 2
第３図　大板井遺跡24全体図（S＝1/50） …… 3
第４図　１・２号甕棺墓実測図（S＝1/30） …… 4
第５図　１・２号甕棺実測図（S＝1/12） …… 5
第６図　３～５号甕棺墓実測図（S＝1/30） …… 6
第７図　３～５号甕棺実測図（S＝1/12） …… 7
第８図　１号祭祀土坑実測図（S＝1/40） …… 9
第９図　１号祭祀土坑出土土器実測図（９はS＝1/6、その他はS＝1/4） …… 10

表目次

表１　大板井遺跡24出土甕棺観察表 …… 8
表２　大板井遺跡24出土土器観察表 …… 11

図版目次

図版１　①甕棺墓群全景（南西から）
　②１号甕棺墓全景（北から）
　③２号甕棺墓全景（北西から）
　④３号甕棺墓全景（北から）
　⑤４号甕棺墓全景（北から）
　⑥５号甕棺墓全景（西から）
　⑦１号祭祀土坑全景（北から）
　⑧１号祭祀土坑土器出土状況（北から）
図版２　１～５号甕棺
　１号祭祀土坑出土土器

第１章　調査の経過と組織

大板井遺跡24の調査は、個人専用住宅の建築に先立ち、平成20年12月15日付で埋蔵文化財の有無に関する照会（事前審査番号08113）が提出されたことに始まる。これを受けて、小郡市教育委員会文化財課で平成21年１月20日に対象地で試掘調査を行った結果、現地表面下30cmで甕棺墓の存在を確認した。これに対して、工事では改良杭を使用することが決定していたため、住宅建築箇所全域にわたって発掘調査を実施することとなった。なお、今回の工事の建築対象が個人専用住宅であったため、市内遺跡発掘調査等（文化財関係国庫・県費補助金）にて対応することとなった。

１．調査の経過

発掘調査は平成21年１月22日から２月６日にかけて実施した。調査の経過について、調査日誌より以下に抜粋して記す。

平成21年１月22日、調査地の整備を行う。１月26日、表土剥ぎ実施。廃土の搬出。１月27日、遺構の検出・掘削開始。甕棺墓５基と祭祀土坑１基を確認する。１月28日、各甕棺墓の写真撮影・実測開始。２月２日、清掃及び全体写真撮影。２月４日、埋め戻し。２月６日、現地撤収。

２．組織

本調査に関わる組織は以下の通りである。

【小郡市教育委員会文化財課】

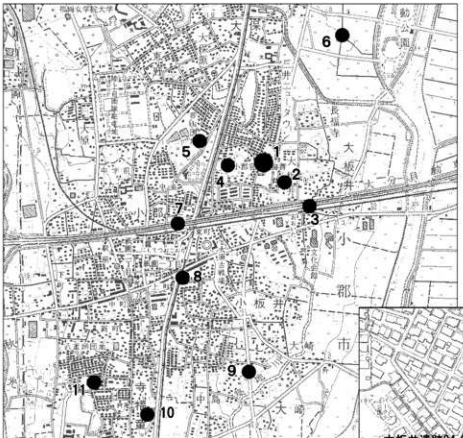
（平成20年度）		（平成21年度）	
教育長	清武　輝	教育長	清武　輝
教育部長	赤川　芳春	教育部長	赤川　芳春
課長	田篭千代太	課長	田篭千代太
係長	重松　正喜	係長	片岡　宏二
企画主査	片岡　宏二	技師	杉本　岳史（整理担当）
技師	佐藤　雄史（調査担当）		

第２章　位置と環境

遺跡の立地する小郡市大板井は、宝満川西岸の市域ほぼ中央に位置し、北側から延びる低位段丘上に立地する。今回の調査区は、すぐ南側には南東から谷が入り込んできており、大板井遺跡18から続く墓地の西端部となることが過去の確認調査から把握されている。

当遺跡の周辺には数々の注目される遺跡が存在している。まず、小郡若山遺跡３では弥生時代中期中頃の甕の中に埋納された多鈕細文鏡２面（国指定重要文化財）が出土した。隣接する小郡遺跡では直径12mを超す円形竪穴住居を中心とした集落も見つかっており、弥生時代前期後半から中期後半にかけての当地域の発展をよく表している。古代では小郡官衙遺跡（国指定史跡小郡官衙遺跡群　小郡官衙遺跡・上岩田遺跡）が注目される。７世紀末から８世紀前半（第Ⅱ期）には、それぞれ「郡庁」・「正倉」・「館」と推測される建物群が整然と配置されており、地方郡衙の代表例として知られる。続く８世紀中頃から後半（第Ⅲ期）には南北180m、東西120mという広大な範囲が２重の溝と築地塀によって区画されている。

大板井遺跡は、1923（大正11）年に中山平次郎博士により「筑後國三井郡小郡村大字大板井の巨石」と題した論文が発表され、学会の耳目を集めるところとなった。さらに、1935（昭和10）年には鉄道軌道敷きの土取りの際に銅戈７本が発見され、さらに注目されることとなる。大板井遺跡23は、東側に隣接する大板井遺跡18とともに、大板井遺跡群の北西端部付近を占めることとなる。大板井遺跡18は、弥生時代から古代を中心とした調査区で、甕棺墓71基・土壙墓19基・石棺墓２基などが検出された。甕棺墓は、弥生時代中期前半を中心としており、今回の調査内容と一致する。これらの墓地は、やや南東に位置する集落群よりも高い場所に営まれており、当時の土地利用のようすを垣間見ることができよう。



第１図　大板井遺跡24周辺遺跡分布図（S=1/25,000）

第２図　大板井遺跡24調査区位置図（S=1/5,000）

第３章　遺構と遺物

遺構検出面は、標高15.5～15.7mを測る。ただし、４号甕棺墓などの検出状況を考えると、本来は数10cm以上高いところが地表面であったことは明白である。検出した遺構は、甕棺墓の大型棺５基、祭祀土坑１基である。東に隣接する大板井遺跡18の状況を考慮すると、これらの上位に複数の小型棺が存在していた可能性も考えられる。

１．甕棺墓

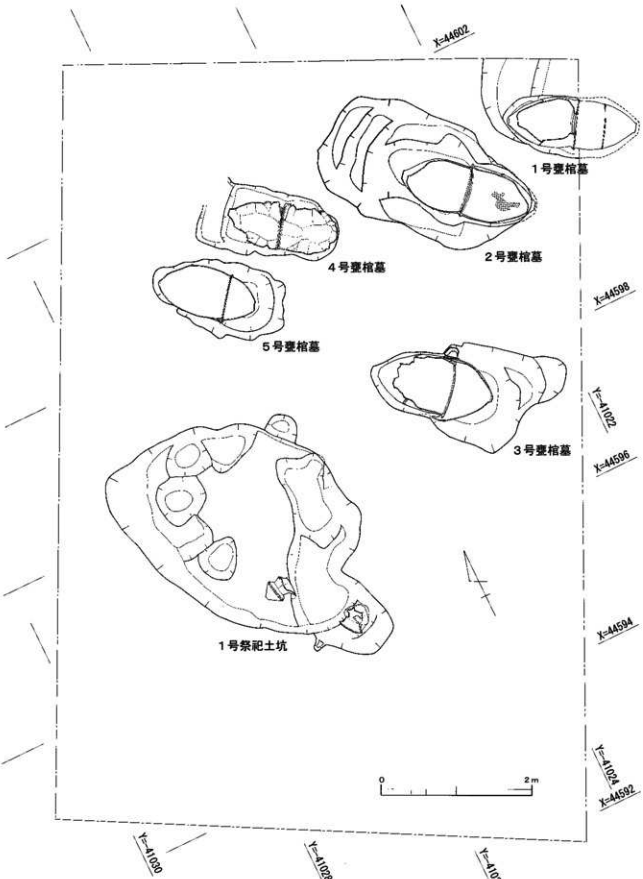
１号甕棺墓（第４図、図版１）

調査区北東端部に位置し、調査区外に延びる。遺構検出面の標高は15.7mを測る。遺構は大きく削平を受けており、下甕を設置するための掘り込み部分より上位は残存していない。墓壙上端は現状で楕円形状を呈し、長さ2.13m、幅1.30mを測る。下端は、長さ1.54m、幅0.65mで、深さは0.72mである。墓壙の埋土は暗灰褐色土＋褐色土で、淡褐色土が斑状に混ざる。甕棺周辺の埋土は淡茶褐色砂質土である。棺は大甕＋大甕の接口式で、合口部に目張り粘土を施す。埋置角度は４°を測り、主軸方位はN-62°-Wである。

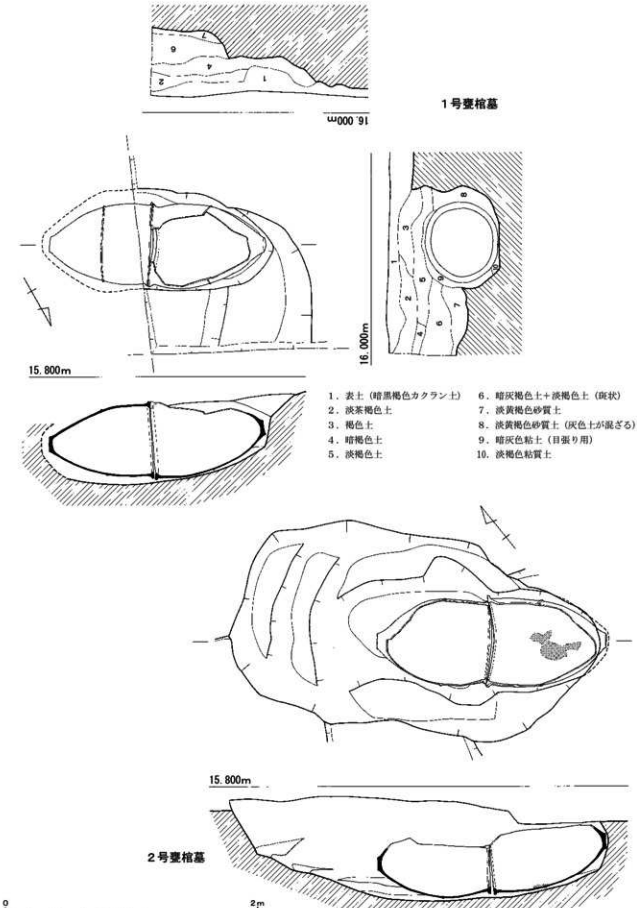
甕棺（第５図、図版２）

上甕　口縁部上面はほぼ水平で、内側に発達する。内外面のナデ調整は非常に丁寧で、その上から黒塗りを施す。黒斑は外面底部付近と内面底部から胴部にかけて見られる。底部を接地させた状態で焼成し、内面には不燃物が残ったものと考えられる。

下甕　上甕と同様、口縁部上面はほぼ水平であるが、内・外側ともに発達は弱い。器面は内外面いずれも板状工具による丁寧なナデで、その上から黒塗りを施す。外面口縁部付近と内面に黒斑を有する。



第３図　大板井遺跡24全体図（S=1/50）



第４図　１・２号甕棺墓実測図（S=1/30）

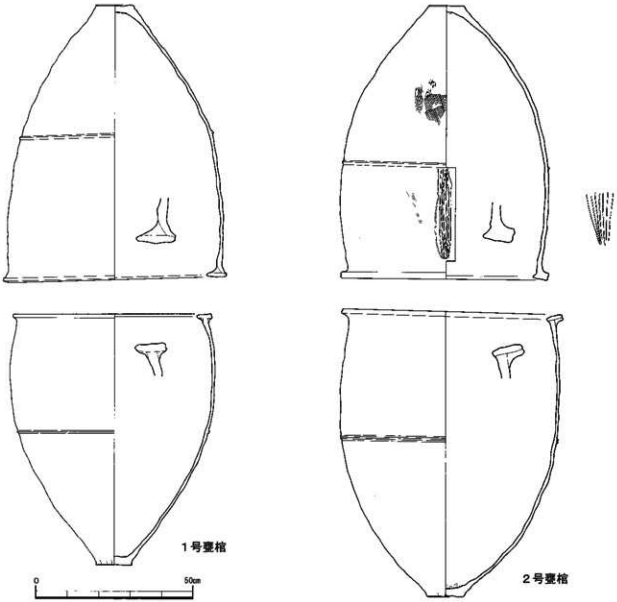
２号甕棺墓（第４図、図版１）

調査区北東部に位置し、遺構検出面の標高は15.7ｍを測る。遺構は削平を受けており、下甕を設置するための掘り込み部分より上位はほぼ残存していない。墓壙は隅丸長方形状だが、下甕部分が南東に突出しており、本来は明確な掘り込みが設置されていた可能性が高い。墓壙上端は現状で長さ2.93ｍ、幅1.60ｍを測り、下端は長さ1.97ｍ、幅0.76ｍを測る。深さは0.66ｍである。墓壙埋土は、下層が淡白褐色粘土を含む淡褐色砂礫土で、上層が淡黒色土＋褐色土に淡褐色砂礫土が斑状に混ざる。棺は大甕＋大甕の接口式で、棺内の下甕頭部付近で赤色顔料を検出した。埋置角度は6°、主軸方位はＮ-52°-Ｗを測る。

甕棺（第５図、図版２）

上甕　口縁部は上方に粘土帯を貼り付け、肥厚している。胴部中位に突帯を１条有するが、その上位に沈線による文様帯を２か所施している。うち１か所はほぼ上下にまっすぐの沈線７条で構成され、他の１か所は下方に向かって放射状に開く沈線７条で構成されている。なお、これらの文様帯は完全に表裏対をなさず、15cm程度のズレが見られる。黒斑は内外面に見られ、胴部上半から口縁部を接地させる状態で焼成したことが推定される。なお、内外面ともに黒塗りを施す。

下甕　上甕と同じく、口縁部の上方に粘土帯を貼り付け、肥厚している。黒斑は内外面に見られ、胴部下位を接地させる状態で焼成したことが推定される。内外面に黒塗りを施す。



第５図　１・２号甕棺実測図（S=1/12）

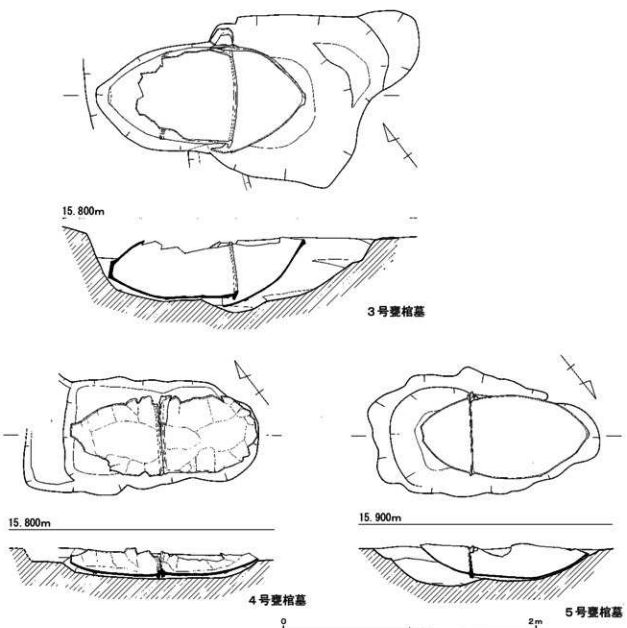
３号甕棺墓（第６図、図版１）

調査区中央やや東部に位置し、遺構検出面の標高は15.7mを測る。遺構は大きく削平を受けており、下甕を設置するための掘り込み部分より上位は残存していない。墓壙は現状では不整形だが、本来は長方形状を呈する可能性が考えられる。墓壙上端は長さ2.53m、幅1.35mを測り、下端は長さ1.54m、幅0.72mを測る。深さは0.60mである。埋土は淡黒色土＋暗灰色土で、淡褐色砂礫土が斑状に混ざる。棺は大甕＋大甕だが、上甕の胴部以上は打ち欠きで、合口型式は覆口式である。なお、合口部に土器の破片３点が見られ、本来は隙間を覆うように配されていた可能性が考えられる。埋置角度は８°、主軸方位はS-52°-Eを測る。

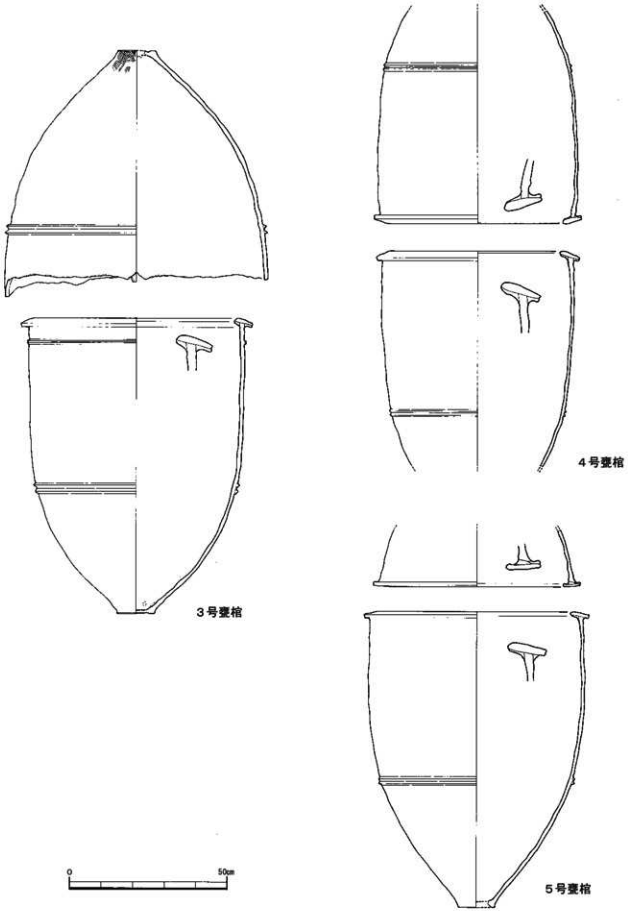
甕棺（第７図、図版２）

上甕　大型の甕を胴部中位で打ち欠いて使用している。突帯の位置から考慮して、本来は器高110cm以上にも及ぶ非常に大型のものと想定される。

下甕　口縁部上方の面は外傾し、やや外側に長く発達する。外面に４か所の黒斑を有し、３点支持により焼成されたと考えられる。口縁部から内外面上位にかけて黒塗りが残り、全面に施されていた可能性も考えられる。



第６図　３～５号甕棺墓実測図（S=1/30）



第７図　３～５号甕棺実測図（S=1/12）

4号甕棺墓（第6図、図版1）

調査区北西部に位置し、5号甕棺墓と隣接する。遺構検出面の標高は15.6mを測る。遺構は大きく削平を受けており、残存状況は悪い。墓壙は本来の形状を残しておらず、現状で長さ1.84m、幅0.91m、深さ0.19mを測る。ただし、墓壙の北西部に段を有しており、北西側の甕が上甕、南東側の甕が下甕と判断できる。埋土は黄褐色土で、暗灰色土が斑状に混ざる。棺は大甕＋大甕で、接口式を呈する。埋置角度は不明だが、ほぼ水平に近いと想定される。主軸方位はN-53°-Wを測る。

甕棺（第7図、図版2）

上甕　口縁部上方の面は外傾し、やや内側に発達する。底部を欠損するが、本来の器高は90cm程度と想定される。外面に残る黒斑から、3点支持により焼成されたと考えられる。外面に黒塗りを施す。

下甕　形状・大きさとも上甕とほぼ同様である。外面に一部黒塗りが残存している。

5号甕棺墓（第6図、図版1）

調査区北西部に位置し、4号甕棺墓と隣接する。遺構検出面の標高は15.7mを測る。遺構は大きく削平を受けており、残存状況は悪い。墓壙は削平により下甕側に突出して見えるが、本来は隅丸長方形または楕円形状を呈するものと考えられる。上端は現状で長さ1.81m、幅1.02mを測り、下端は長さ0.96m、幅0.48mを測る。深さは0.29mである。埋土は、下層が淡黄褐色土で、上層が暗灰色土＋暗褐色土である。棺は鉢＋大甕で、接口式を呈する。埋置角度は不明だが、水平に近いと想定される。主軸方位はS-51°-Eを測る。

甕棺（第7図、図版2）

上甕　口縁部上方の面は水平からやや外傾し、断面T字状を呈する。

下甕　口縁部上方の面は外傾し、内側に発達する。胴部中央やや下位に見かけ2条の突帯を1条有する。

表1　大板井遺跡24出土甕棺観察表

番号		器種	法量（）は復元	特徴		調整	形態	時期
1	上	甕（大型棺）	口径 71.5 底径 12.0 器高 88.1	胎土 2mm以下の砂粒含 色調 外：浅黄橙色 内：灰白色 焼成 良好		外：ナデ 口：ヨコナデ 内：ナデ	口縁部上面はほぼ水平で、やや内側に発達する。調整は内外面ともに非常に丁寧なナデで、内面底部にわずかに指頭痕を残す。外面胴部中位には断面三角形の突帯を1条有する。内外面ともに黒塗りを施す。	浅田式
	下	甕（大型棺）	口径 63.8 底径 11.4 器高 80.7 最胴 65.8	胎土 2mm以下の砂粒含 色調 外：浅黄橙色 内：浅黄橙色 焼成 良好		外：工具ナデ 口：ヨコナデ 内：工具ナデ	口縁部上面はほぼ水平で、内・外側ともあまり発達しない。調整は内外面ともに板状工具によるナデで、内面は左斜め上方に向けてナデ上げる様子が確認できる。外面胴部中位には断面三角形の突帯を1状有する。内外面ともに黒塗りを施す。	
2	上	甕（大型棺）	口径 66.7 底径 10.8 器高 87.8 最胴 66.7	胎土 3mm以下の砂粒含 色調 外：にぶい黄橙色 内：灰白色 焼成 良好		外：ハケ後ナデ 口：ヨコナデ 内：ナデ	口縁部は上方から粘土帯を貼り付け、肥厚している。外面胴部中位に断面三角形の突帯を1条有し、その上位に上下方向で7本1セットの沈線による文様帯が2か所見られる。外面の調整はナデ消しだが、一部ハケ目が残る。内外面に黒塗りを施す。	城ノ越式
	下	甕（大型棺）	口径 71.0 底径 11.3 器高 91.6 最胴 70.4	胎土 1mm以下の砂粒含 色調 外：淡橙色 内：橙色 焼成 良好		外：工具ナデ 口：ヨコナデ 内：工具ナデ	口縁部上方から粘土帯を貼り付け、肥厚している。胴部中位には見かけ2条の突帯を1条有する。調整は内外面ともに非常に丁寧な工具ナデだが、内面底部には指頭痕が多く残る。内外面全面に黒塗りを施す。	
3	上	甕（大型棺）	上部径 84.3 底径 12.0 残存高 79.0	胎土 2mm以下の砂粒含 色調 外：浅黄橙色 内：浅黄橙色 焼成 良好		外：ハケ後工具ナデ 内：工具ナデ	大型の甕で、胴部中位以上を打ち欠く。突帯は粘土紐1条を見かけ2条の三角突帯に成形している。調整は内外面ともに丁寧な工具ナデであるが、外面底部付近にハケ目が残る。	須玖式
	下	甕（大型棺）	口径 (74.2) 底径 12.0 器高 94.8	胎土 2mm以下の砂粒含 色調 外：浅黄橙色 内：浅黄橙色 焼成 良好		外：ハケ後工具ナデ 内：工具ナデ	口縁部上方の面は外傾し、やや外側に長く発達する。外面口縁部下位に断面M字状の突帯を1条、胴部中位には断面三角形の突帯を2条有する。調整は内外面ともに丁寧な工具ナデである。口縁部付近に黒塗りが残り、本来は全面に施されていた可能性がある。	
4	上	甕（大型棺）	口径 (66.4) 残存高 67.9	胎土 3mm以下の砂粒含 色調 外：浅黄橙色 内：浅黄橙色 焼成 良好		外：ナデ 口：ヨコナデ 内：ナデ	口縁部上方の面は外傾し、やや内側に長く発達する。胴部はなだらかに広がるが、口縁部下位でやや縊まる。外面胴部やや下位に断面三角形の突帯を2条有する。外面には全面黒塗りを施す。	浅田式
	下	甕（大型棺）	口径 (65.0) 残存高 69.0	胎土 3mm以下の砂粒含 色調 外：淡橙色 内：橙色 焼成 良好		外：ナデ 口：ヨコナデ 内：工具ナデ	口縁部上方の面は外傾し、やや内側に長く発達する。外面胴部下位に断面三角形の突帯を2条有する。外面は摩耗しているが、内面は丁寧に工具ナデ調整が施されている。外面にわずかに黒塗りが残る。	
5	上	鉢（大型棺）	口径 (66.4) 残存高 19.4	胎土 3mm以下の砂粒含 色調 外：黄橙色 内：浅黄橙色 焼成 良好		口：ヨコナデ	口縁部上方の面は水平に近く、わずかに外傾する。胴部と口縁部の接合面には丁寧なナデが施されていることが確認された。	浅田式
	下	甕（大型棺）	口径 (72.2) 底径 (11.6) 器高 95.0	胎土 2mm以下の砂粒含 色調 外：浅黄橙色 内：浅黄橙色 焼成 良好		外：ナデ 口：ヨコナデ 内：ナデ	口縁部上方の面は外傾し、内側に発達する。外面胴部中位に1条の粘土紐を貼り付け、見かけ2条の三角突帯に成形している。調整は内外面ともに丁寧なナデである。	

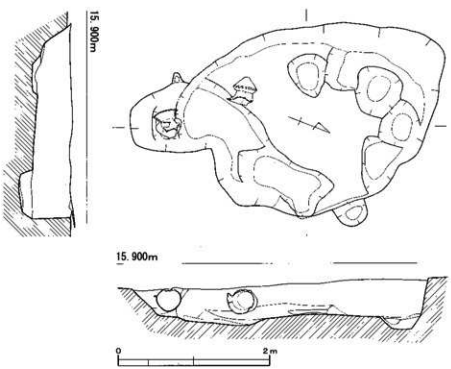
２．祭祀土坑

１号祭祀土坑（第８図、図版１）

調査区の中央やや西部に位置し、遺構検出面の標高は15.7ｍを測る。遺構は南北に長い楕円形状を呈し、南側が一部突出する。上端は長さ4.06ｍ、幅2.49ｍを測る。床面には溝状・ピット状の掘り込みが多く見られ、最深部で上端からの深さ0.66ｍを測る。遺構の南部及び南側突出部ではほぼ完形の丹塗り壺を各１点検出した。その他にも小型の壺や器台など、祭祀に関係する遺物が出土している。

出土土器（第９図、図版２）

第９図１はほぼ完形の壺で、口径33.2㎝、胴部最大径32.9㎝、器高31.5㎝を測る。頸部外面は工具によって横方向にナデた後に、縦方向に40本程度を１セットにした暗文を５か所施している。外面全面及び内面頸部に丹塗りを施す。２もほぼ完形の壺だが、１とは形状が異なる。口径37.4㎝、胴部最大径29.1㎝、器高33.0㎝を測る。頸部外面には全面にわたって縦方向の暗文を施し、さらにその上から頸部上面のみに斜め方向の暗文を全面施している。胴部上半には、16～18本を単位とした縦方向の沈線を５か所に巡らせる。外面から頸部内面にかけて丹塗りを施し、胴部内面にもかなり丹の付着が見られる。３～５は下層出土土器である。３は口径25.0㎝を測る壺で、口縁部の上面は粘土紐の貼り付けにより肥厚させている。５は器台で、裾部径9.6㎝を測る。６～10は上層出土土器である。６は甕口縁部小片で、外面口縁部下位に見かけ２条の突帯を１条有する。口唇部の上下と突帯の突部２ヶ所に刻み目を施す。７～９は大型の甕底部で、10は壺の胴部から頸部にかけてである。



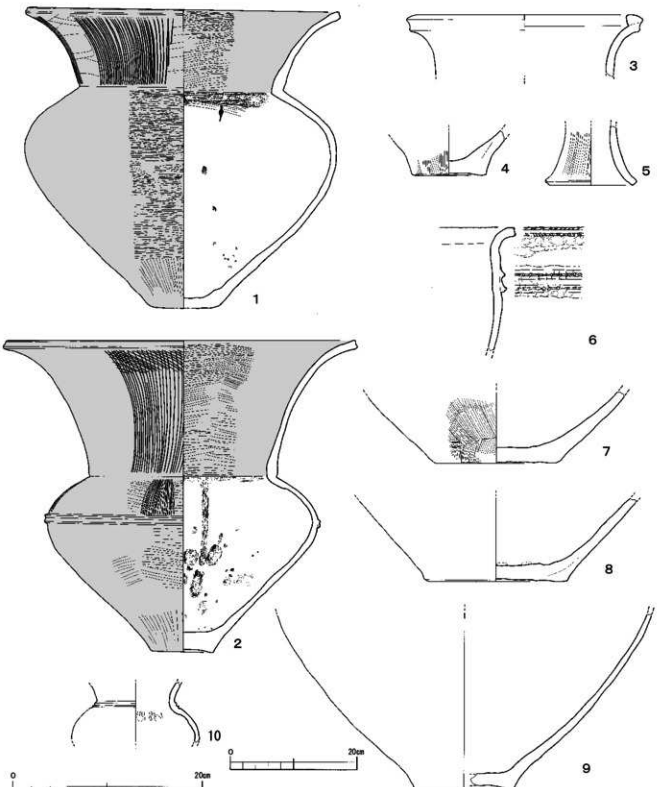
第８図　１号祭祀土坑実測図（S=1/40）

第４章　まとめ

今回の調査で確認された５基の甕棺墓の時期は、城ノ越式段階（２号甕棺墓）から汲田式段階（１・４・５号甕棺墓）、そして須玖式段階（３号甕棺墓）へと及ぶ。また、祭祀土坑出土の土器は、下層にやや古い要素が見られ、上層の完形の壺が須玖Ⅰ式新段階と考えられることから、甕棺墓の時期とほぼ一致する。ここで注目されるのが当遺跡から約40ｍ東に位置する大板井遺跡18との関係である。

大板井遺跡18のＤ地点２区では甕棺墓71基・土壙墓19基・石棺墓２基・土壙７基が調査された。遺構の時期は中期初頭（一部前期に遡る可能性有り）から中期中葉であり、今回の調査成果と一致する。また、大板井遺跡18の甕棺墓

列の軸と、今回検出した５基の甕棺墓群の軸とがほぼ一致することも指摘できる。これらのことから考え、両者は同一の墓地を構成している可能性が極めて高いと言えよう。なお、今回の調査区のさらに西側は、地形が下り谷部へと至る。弥生時代前期から中期にかけての拠点集落大板井遺跡では、これまでの調査成果からその周縁を墓地が囲むとされている。今回の調査でその一端が確認されたことは、今後につながる大きな成果と言えよう。



第９図　１号祭祀土坑出土土器実測図（９はS=1/6、その他はS=1/4）

表２　大板井遺跡24出土土器観察表

法量＝口：口径　高：器高　底：底径　最胴：胴部最大径　板：板部径

出土遺構		郡図番号	国図番号	器種	法量(復元値)cm	色　調	胎　土	焼成	成形・調整技法	備　考
1号祭祀土坑	下層	9−1	2	壺	口：33.2 高：31.5 最胴：32.9 底：(7.6)	外：明赤褐色 内：明赤褐色～橙色～褐色	1mm以下の砂粒を僅かに含む	良好	外：ミガキ 口：ヨコナデ 頸内：ミガキ 胴内：ナデ	内外面丹塗り。頸部外面に5セットの暗文。
		2	2	壺	口：37.4 高：33.0 最胴：29.1 底：6.6	外：明赤褐色 内：明赤褐色～橙色	細砂粒を僅かに含む	良好	外：ミガキ 口：ヨコナデ 頸内：ミガキ 胴内：ナデ	内外面丹塗り。頸部外面に縦方向の暗文。頸部外面上位に斜方向の暗文。胴部上位に5セットの暗文。
		3		壺	口：(25.0)	黄橙色	3mm以下の砂粒を多く含む	良好	口：ヨコナデ	
		4		甕	底：7.8	外：明黄褐色 内：にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒を多く含む	良好	外：ハケ 内：ナデ	
		5		器台	脚：9.6	橙色	3mm以下の砂粒を含む	良好	外：ハケ 内：ナデ	
	上層	6		甕		外：橙色 内：橙色～黒色	3mm以下の砂粒を含む	良好	外：ナデ 口：ヨコナデ 内：ナデ	内面に黒斑。
		7		甕	底：12.8	外：橙色 内：黒色	3mm以下の砂粒を大量に含む	良好	外：ハケ 内：ナデ	内面に黒斑。
		8		甕	底：15.0	明褐色～赤褐色	3mm以下の砂粒を多量に含む	良好	外・内：ナデ	
		9		甕	底：(16.1)	外：淡黄橙色 内：にぶい橙色	3mm以下の砂粒を含む	良好	外・内：ナデ	
		10		壺	最胴：(13.4)	外：にぶい黄褐色 内：にぶい褐色	1mm程度の砂粒を少量含む	良好	外・内：ナデ	

報告書抄録

ふりがな	おおいたいいせき24
書名	大板井遺跡24
副書名	
巻次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第249集
編著者名	杉本岳史
編集機関	小郡市教育委員会
所在地	〒838-0198　福岡県小郡市小郡255-1　☎0942-72-2111
発刊年月日	2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おおいたいいせき 大板井遺跡24	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 おおいたい 大板井	40216		33° 23′ 52″	130° 33′ 41″	20090122 ～ 20090206	70㎡	個人専用 住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大板井遺跡24	墓地	弥生時代	甕棺墓　5基 祭祀土坑　1基	甕棺 弥生土器	

大板井遺跡24

小郡市文化財調査報告書

第249集

2010年3月31日

発行　小郡市教育委員会
　　福岡県小郡市小郡255-1

印刷　ハイウェーブデザイン
　　福岡県小郡市力武255-44

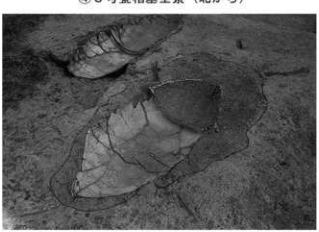
①甕棺墓群全景（南西から）

②１号甕棺墓全景（北から）

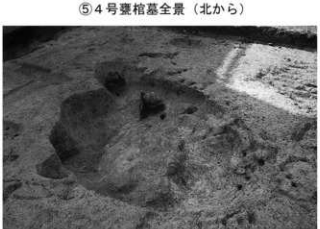
③２号甕棺墓全景（北西から）

④３号甕棺墓全景（北から）

⑤４号甕棺墓全景（北から）



⑥５号甕棺墓全景（西から）



⑦１号祭祀土坑全景（北から）

⑧１号祭祀土坑土器出土状況（北から）

図版２

１号甕棺

２号甕棺

３号甕棺

１号祭祀土坑１

４号甕棺

５号甕棺

１号祭祀土坑２

１～５号甕棺、１号祭祀土坑出土土器